

10月の支出(図書、備品、慶弔、飲食除く)

120,694円

情報公開の第一歩 政治資金を見えるようにします。

印刷代(月刊武松印刷代他)	44,616円
交通費(駐車場、燃料代)	7,613円
通信費(折込代、携帯電話代)	68,465円
支出計 20/10/1~20/10/31	120,694円

市政を考える 月刊武松

発行日
20/11/1

第193号

21500部発行

たけまつ ただし
頒布責任者：武松 忠(市議会議員)

新病院 現地再建・事業費288億円

新病院建設基本計画(素案)が示され12月定例会で議決へ

10/16に開催された新病院建設調査特別委員会で、小田原市新病院建設基本計画(素案)が示されました。これは、守屋市長就任後に建設用地も含めた基本構想の検証が行われたものです。

結果的には、建設地は**現地再建**で、新型コロナウイルス感染拡大があったことから、**感染対策施設計画**を盛り込みました。また1階に**地域連携・入退院支援センター**を設置するなど地域の医療機関との連携を強める計画となっています。

■新病院の基本的事項

診療科構成

医療ニーズや医療資源の状況に応じて対応
(現在 26診療科)

病床数

417床→400床程度(重症病床、救急病床含む)

重症病床の充実

ICUを増床、救急病床合わせて50床程度

外来患者数

救急患者、紹介患者や
専門外来患者を中心に診療

手術室の増室

8室→10室程度

■建築規模

病床規模 400床程度

延床面積 約40000㎡

付帯施設

ヘリポート、駐車場、
院内保育所(既設)

■スケジュール

建設場所周辺の調査から、埋蔵文化財が5層に渡る可能性が高いため調査期間2年と事業費10億円を見込んでいます。

2026年度中開院予定

■建設事業費

表1に建設事業費を示します。

表1 新病院建設事業費比較表

費目	概要	基本計画	基本構想
本体工事	本体工事費	198億円	180億円
付帯工事	駐車場・外構	15億円	—
解体工事	既存病院、宿舍	12億円	5億円
設計費等	設計、工事監理、支援	10億円	—
調査費等	地質・環境	0.5億円	—
医療機器	医療機器等整備費	40億円	40億円
合計		276億円	225億円

※上表のほか文化財調査や接続道路整備等の関連事業費は、約12億円(税込)を見込みます。

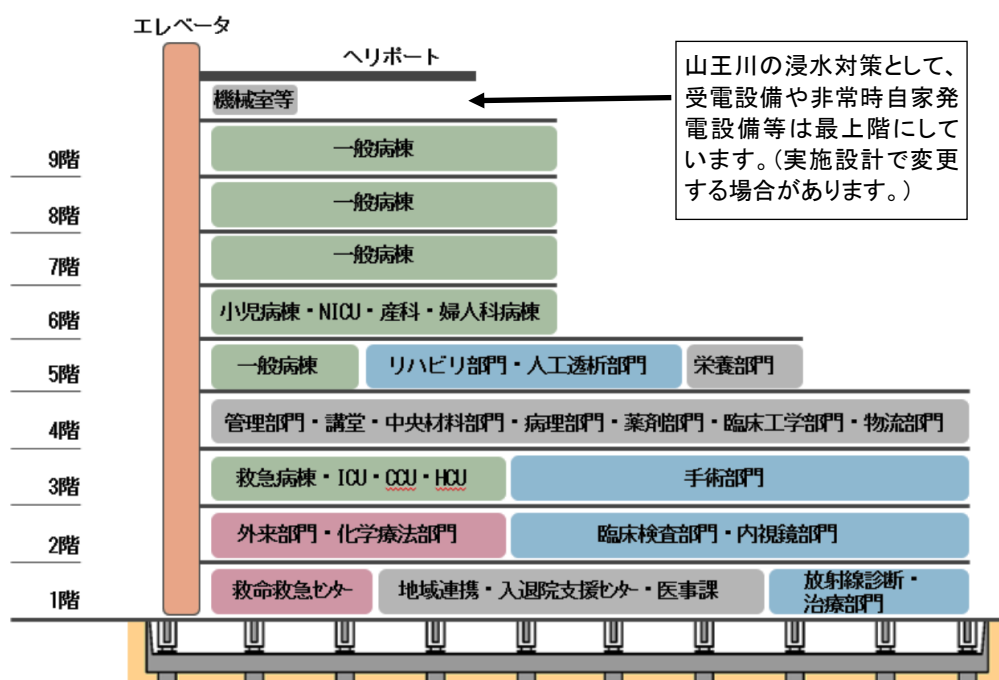


図1 新病院階層構成(地下は免震構造)

コロナに的確に備える

新型コロナウイルス感染症は、世界的には再拡大状態であり、全国的にも経済活動の再開とともに、各地で集団感染が発生しています。そこで、県西2市8町の最近の傾向とインフルエンザの流行と年末年始の移動に備え、感染リスクが高まる5つの場面についてまとめます。

図2に年代性別感染者数を示します。院内感染が発生した5月に比べ、20～60代の男性が増加。

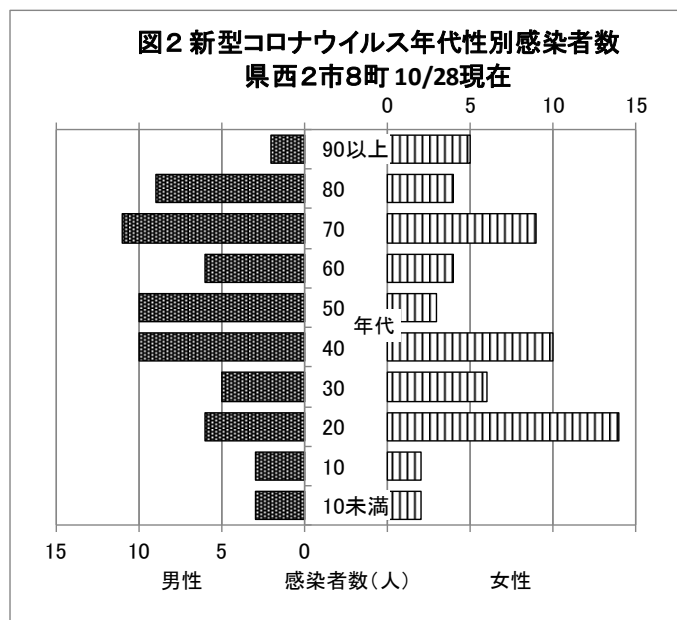
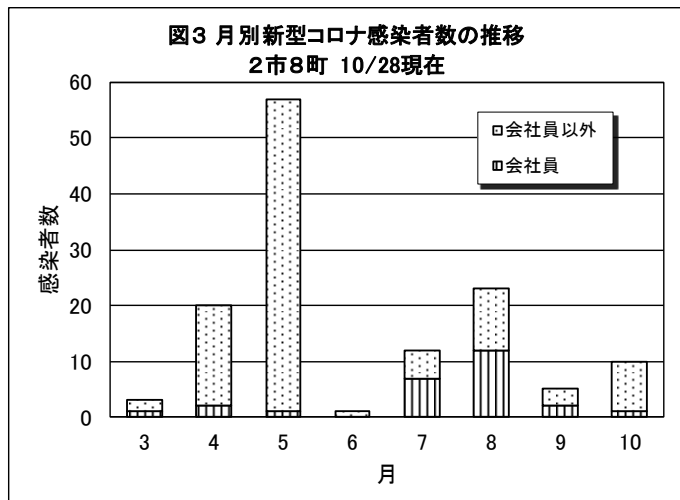
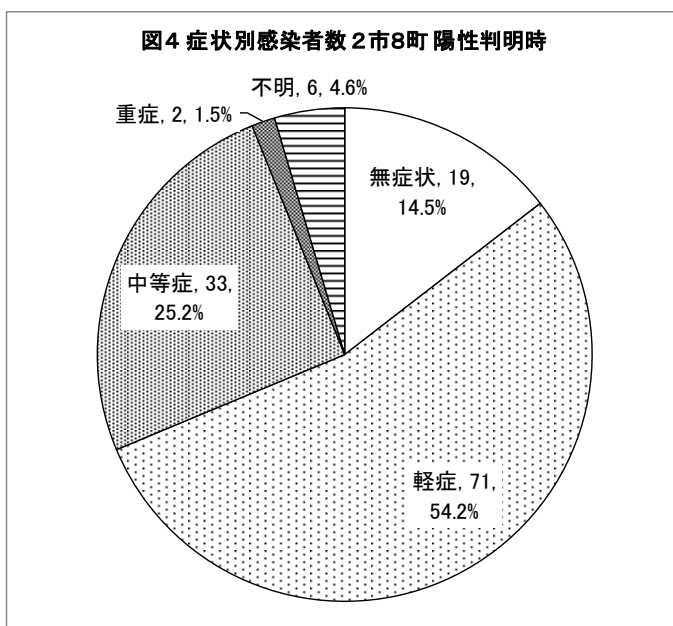


図3に月別感染者数を示します。経済活動の再開



とともに7～8月は、会社員の感染が急増し、家庭内感染が増えました。しかし、小田原市内では小中学生への感染はありませんでした。

図4に症状別感染者数を示します。5月末の時点で無症状と軽症合わせて52%だったものが、10月末では、69%となっており、PCR検査体制の充実も一定の効果を上げています。



■感染リスクが高まる5つの場面

10/23の新型コロナウイルス感染症対策分科会から政府への提言を抜粋して示します。

- 1 飲酒を伴う懇親会等**
- 2 大人数や長時間におよぶ飲食**
- 3 マスクなしでの会話**
 - ・マスクなしに近距離で会話をする事で、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
 - ・マスクなしでの感染例としては、昼カラオケなどでの事例が確認されている。
 - ・車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。
- 4 狭い空間での共同生活**
 - ・寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。
- 5 居場所の切り替わり**
 - ・休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。

新型コロナウイルス感染症対策のため11月の議会報告会は中止します。

災害時の情報入手方法

- ・防災行政無線の放送内容
- ・テレビ神奈川のデータ放送
- ・火災などの災害情報

0120-244-400
d → マイタウン → 防災気象情報
0180-99-4949



公式HP



twitter



facebook



▲北條五代祭りにて